



香港交流会 IN香港 R6年度

12月11日から12月14日に香港を訪れました。この交流会は、互いの文化を知ったり、自分の考えを表現したりするいい機会となりました。



林護中学校



感想

名刺交換や食事などでの会話を通して、香港の人たちの英語力のすごさを感じた。私たちは、話したいことがあるとき、どう話したらいいかと迷って戸惑ってしまったけど、林護中の生徒の皆さんは思ったことをすぐに言って、発音もすごく滑らかで驚いた。私たちが、うまく伝えられなくても、分かってくれようとしてくれて優しさを感じた。林護中学校の生徒さんたちとのコミュニケーションを通して、海外の方が日本に来たときは、そのように話したいと思った。また、国が違って繋がることを学べた。交流会で、私たちがアニメや音楽について紹介したときに、「Do you know?」と聞くとたくさん手を挙げてくれたり、反応してくれたりしてくれて嬉しかった。

そして、もう一つ印象に残っているのは、学校が7階建てだったことである。学校ツアーのときに何回も階段を往復したり、職員室は教科ごとに違ったりして、広さと部屋の多さを実感した。

日本領事館



感想

領事館では、主に2つのことについてお話を伺った。1つ目は、外国で生活する上で大切な心得について。お話をしてくださった西野様は「海外では、自分が‘非’常識である」と仰っていた。日本の「察する」というコミュニケーションが通じない。そのために、外国の言い方や作法を習得することが必要である。私は、中学生のうちから外国の作法を学んで習得しておこうと思った。

2つ目は、外国で働くために中学生のうちにしておくべきことについて。「学生のうちに英語を学ぶことで仕事の幅が広がる」と仰っていた。私は将来、海外で働きたいと思っているので、英語を学んで、中学生のうちに話せることができるようになりたい。海外で生活したり、働いたりすることがあるであろう中学生に有益なお話をお聞きすることができた。領事館で学んだことをこれからの人生に活かしつつ、友人にも共有していきたい。

女人街・ランガムプレイス



感想

女人街やランガムプレイスでは、お土産を購入した。購入する際にどうしても避けられない行動と言えば、支払いだ。支払いの際、すごく緊張したが、外国人ということで店員さんの手厚いサポートにより、スムーズに買い物ができた。また、女人街では「値切り」が醍醐味だ。「can you」や「I see.」などの言葉を使う訓練となった。私たちの中には半額にしてもらうことに成功した者もいる。林護中学校なども現地の人ではあるが、異文化を感じながらコミュニケーションをとることは買い物でより育まれた。ここで分かったことは、難しい単語でなくとも、簡単な単語の組み合わせで乗り切ることができるということだ。ただし、簡単な英語といっても学校で習う英語ばかりではない。まずは自分や周りの人の口癖を英語にするなど、英語を日常に溶け込ませることが重要だと考える。言語の大きさははかることができないが、どれだけ英語が大きいのか実感した旅だった。